



81.6.15  
No. 765

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五・六(公衆)四三三(宅)二七二〇七

# 「コロビ」デッチあげ、タレコミ告訴 動労「本部」が警察の弾圧を要請

## コロビ屋・革マル分子嶋田誠をつかった 動労千葉破壊の卑劣な陰謀を粉碎せよ!

声 明

一、六月十三日、動労「本部」は、前日の津田沼電車区における仙台局から千葉に帰任した予科生への歓迎と組合加入オルグをめぐって、「動労千葉による集団暴行事件」をデッチあげ、動労千葉役員、組合員十名を船橋署に告訴、告発し、警察権力による動労千葉への弾圧を要請するという、労働組合にけつしてあるまじき、断じて許すことのできない反階級的暴挙を行った。

動労千葉千三百組合員は、この反階級的暴挙を満身の怒りをこめて断罪し、心底からの階級的怒りを爆発させ、警察と完全に一体となり、「警察労働組合」ともいふべき、凶悪な反階級的反労働者の本性を赤裸々にしておそいかかる動労「本部」革マル分子の動労千葉組織破壊攻撃を必らずうち破ることを、ここに断固として宣言する。

二、動労「本部」は、名うての転び屋、革マル潜入分子嶋田誠をつかって、「傷害事件」をデッチあげ、恥しらずにも警察にタレコミ、告訴して、なんと、警察による動労千葉弾圧を要請したのだ。警察権力に労働者を売り渡し、警察力をつかってたたく動労千葉破壊の目的をとげようというのだ。これは鉄労よりもっと悪らつな、総評労働運動にかつて類例をみない階級的犯罪そのものだ。

事態の一切の核心は、路線的正義性と優位性のもと、五日間におよぶ三月ジェット決戦ストライキを成戦功させるまでに、着実な組織的、運動的前進をとげてきたわが動労千葉のたにかいに追いつめられ、組織的危機にあせる「本部」革マル分子が、動労千葉の組織破壊のために警察権力の弾圧と介入を導入せんとして、かねがね路線的系統的に準備してきたきわめて意図的に仕組まれた卑劣きわまる反階級的陰謀だ、という点にある。

三、「本部」革マル分子が、動労千葉破壊のために警察力の導入を目的意識的に仕組んできたことは、以下の事実をみれば疑う余地なく明らかである。

① 津田沼配属の予科生九名のうち、嶋田、斉藤らは、「本部」指向と目される一人を勝手にこっそりと囲いこみ、わざわざ八名とは別の電車で遅れてやってきた事実。あらかじめ計画的に動労千葉の怒りを挑発し、かねがね悪質卑劣な転び屋・嶋田は「待ってました」とばかりに転び屋の本領を発揮して、一〇〇%ウソの「傷害事件」をデッチあげたのである。

② 医院に駆けこんだ嶋田は、医者から「大したことはない」と三日分の薬をもらって帰されたのに、一度三信ビルに帰ったあと二度目に、無理に「入院」を頼みこみ診断書をとっている事実。「本部」革マル分子によって仕組まれた「傷害事件」の跡が歴然としていないか。

③ 十二日に「事件」をデッチあげ、翌日には、弁護士十五人と訴状をそろえて告訴するという、常識を越えた準備、手まわしのよさ!

④ 「デッチあげ『千葉地本情報』」の最近の番号は「千葉動労の蛮行」「ヤクザ、ゴロツキまがいのオドシ」等の表現が瀕々と使われ、「動労『本部』青年部全国委員会」方針によれば「千葉動労の組合員は全人民の敵であり、解体し粉砕する」と書かれている事実。これは、動労千葉解体のためには手段をえらばないこと、即ち、警察力を導入する意図をも路線的に準備していることを示している。

四、七九年四・一七津田沼支部片岡支部長に頭蓋骨折の重症を負わせる武装襲撃を凶行し、八〇年四・一五春闘スト破壊襲撃と同じく船橋署への弾圧要請、国鉄当局への布施副委員長の解雇処分要求など反階級の暴挙をくりかえしてきた動労「本部」革マル分子は、いまや、コロビ、デッチあげ、タレコミ告訴というもつとも卑劣な手段を目的意識的に駆使して、労組間対立に警察権力を引き入れ、弾圧を要請するまでに完全に腐敗堕落したのだ。

五、われわれ動労千葉千三百組合員は、このような動労「本部」の警察力を利用した新たな動労千葉破壊攻撃に、限りない階級的怒りを燃えさせたせ、断固としてたたかいぬき、必らず勝利することを宣言する。

一九八一年 六月十五日

国鉄千葉動力車労働組合闘争委員会